

延暦寺奉納 願いかなう

天童の工芸作家・上沼さん

天童市山元の工芸作家上沼緋佐子さん(57)が創作した経箱「梵字種子両界大日三尊」(ぼんじしゅしりょうかいだいにちさんぞん)が、天台宗の総本山・比叡山延暦寺に奉納される。18日に現地で行われる奉納式と法要が執り行われる。

上沼さんは山形市旅籠町の出身で、1973(昭和48)年、女子美術短大(東京)の造形科彫塑教室を卒業。全国各地で創作活動を展開し、90年から三重県の伊勢市に拠点を構えて、各地で個展を開催するなどしてきた。2004年からは天童市内のアトリエで作品を制作。日本伝統工芸展で何度も入選しており、日本工芸会の正会員でもある。

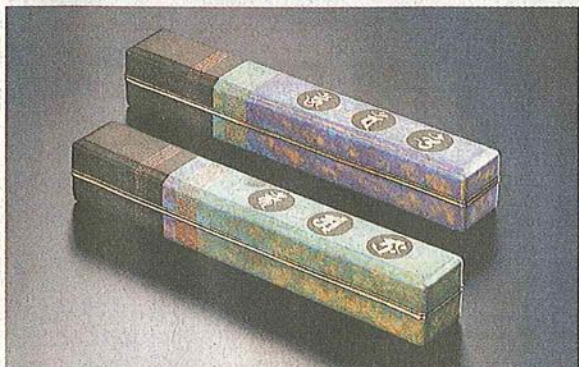
制作2年「唯一無二」の経箱

経箱の制作は92年に始めた。文化庁の補助を受け、日本古来の技法「泥釉(どろゆう)七宝」の再現に取り組んだことなどがきっかけだった。「梵字種子両界大日三尊」は2年をかけて苦心の末に完成させた作品で、大きさは縦36センチ、横と高さがそれぞれ6センチ。銅製の箱に泥釉を塗り、30回近くも焼く作業を繰り返す。

その個展に訪れたのが、以前から知り合っていた若松寺(天童市)の氏家栄脩住職だ。18日に現地で行われる。上沼さんは、縁結びの観音様として、最近になって「作品としての安堵(あんど)の地を見つけてあげたい」と思う。氏家住職は、天台宗・宗議会の議員を長く務め、副議長も歴任した。個展に訪れた際も、延暦寺で開かれる会を、自分と比叡山延暦寺を、今後の創作の新たな一歩にできればうれしい」と話し

若松寺 結んだ縁

し、仕上げた。上沼さんが唯一無二と表現する梵字種子両界大日三尊は、15年以上も大切に持っていたが、最近になって「作品としての安堵(あんど)の地を見つけてあげたい」と思う。氏家住職は、天台宗・宗議会の議員を長く務め、副議長も歴任した。個展に訪れた際も、延暦寺で開かれる会を、自分と比叡山延暦寺を、今後の創作の新たな一歩にできればうれしい」と話し、氏家住職が、延暦寺幹部に掛け合った。そして、正式に奉納されている。



左 奉納される経箱

比叡山延暦寺に経箱を奉納する上沼緋佐子さん(右)とそれを仲立ちした若松寺の氏家栄脩住職

天童市・若松寺